

目的

気候変動に伴う高水温化によるアコヤガイ、カキ、マダイ、マハタのへい死、ノリの生育不良等の養殖被害を防止し、高水温化に適応する新しい養殖業を確立することで、安定的な水産物の生産・供給を可能にし、効率的かつ持続的に発展できる「強靱なみえの養殖業」を実現する。

現状の取組と課題

気候変動に伴う高水温化によるへい死や生長不良が大きな問題であり、今後も高水温化の継続が見込まれるため、現行の取組に加え、以下の課題対応が必要。

<真珠養殖>

(取組) ICTブイによる漁場環境モニタリング・情報発信、三重県版アコヤタイムラインの運用。
(課題) 高水温化に適応する種苗の安定生産。

<カキ養殖>

(取組) 漁場環境モニタリング・情報発信。
(課題) 高水温化に適応する種苗の導入や養殖管理技術の開発。

<魚類養殖>

(取組) ワクチン2回接種、高水温耐性種苗の選抜育種。
(課題) 養殖魚の自然免疫機能の強化。

<藻類養殖>

(取組) ICTブイによる漁場環境モニタリング・情報発信。
(課題) 高水温化し採苗が不安定化する青ノリ漁場で、効率よく短期間に確実に天然採苗を行う技術の開発。

取組内容



(1) 真珠養殖 (4,908千円)

・高水温化に適応する種苗の安定生産に向け、産官連携の種苗生産プラットフォーム「三重県アコヤシードバンク」のもと、引き続き新たなシステムを保存するとともに、養殖業者と選抜育種した種苗の飼育試験を行い、種苗の特性評価の実施。

(2) カキ養殖 (2,277千円)

・西日本産種苗の導入及び飼育試験を継続し、高水温化に適応する養殖技術を開発するとともに、海水温が低い伊勢湾での飼育試験を実施し、新たな養殖漁場を探索。
・養殖カキの成長を抑制することにより、高水温に伴う夏季の衰弱を抑えてへい死を軽減する養殖試験を引き続き実施。

(3) 魚類養殖 (2,008千円)

・養殖魚の自然免疫機能を強化するため、免疫賦活効果がある新たな飼料を開発。

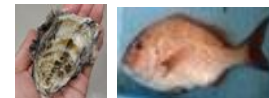
(4) 藻類養殖 (3,106千円)

・青ノリの効率よく確実な天然採苗に向け、遺伝子検査を活用した天然採苗技術を開発。

効果

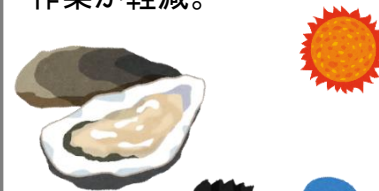


高水温化に適応する“強靱な”新養殖業を確立することで、水産物を安定的に生産・供給し、効率的かつ、持続的な養殖業の場を創出し、県内水産業における新規漁業就業者の増加が図られる。



・真珠、カキ、魚類養殖では、種苗のへい死率の低下により収穫量が増加、へい死を見越して飼育してきた種苗数の軽減による経費や飼育作業が軽減。

・藻類養殖では、確実な採苗技術の開発により収穫量が増加、採苗作業が軽減。



目標 高水温化への適応策により、本県海面養殖業の収穫量を10%向上
※2024年収穫量について2019年比

